

(平成29年4月19日)

第23回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H29. 4. 18 (火) 18:30~20:00
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F B会議室
出席者 : 18名

< 配布資料 >

- ・ 資料—1 「小三郎が江戸で滞在した場所」～石川浩さん作成
- ・ 資料—2 「科学技術の歴史と日本の役割」～丸山瑛一さん作成
- ・ 資料—3 「東京上田会会報第62号」～書評「赤松小三郎ともう一つの明治維新」成田邦夫さん。～寄稿「日本の祭り絵を世界に紹介」村田寛さん

< 回覧資料 >

滝澤進さんより供覧資料（倉澤正幸上田市立博物館長からの送付資料）

- ・「大政奉還150周年記念スタンプラリーガイドブック」・・・13Pに赤松小三郎関係記事あり。
- ・「大政奉還における赤松小三郎の影響」（上小郷土研究會報No. 99 8P、倉澤正幸上田市立博物館館長執筆論文）
- ・「真田信繁と真田家の絆」（真田氏関連特別企画展）

< 内容 >

- (1) 赤松小三郎顕彰会初代会長の伊東邦夫さんが3月21日お亡くなりになられた。歴史に隠されていた赤松小三郎の事蹟を掘り起こすことにご尽力され、更に顕彰会会長としてご活躍されました。また当研究会へも多大なご支援をいただいた（故）伊東邦夫さんの御霊へ全員で黙祷を捧げた。
- (2) 4月1日（日）、関良基さんが上田市へ出向き、上田郷友会主催の講演会でご著書「赤松小三郎ともう一つの明治維新」について講演された。130名を超える参加者があり、大変盛況であったとのこと。
- (3) 「小三郎が江戸で滞在した場所」 石川浩さん
江戸の古地図をもとに、石川さんが小三郎と関係ある場所を実地調査した報告。
●上田藩上屋敷
1720年代には昌平橋付近の神田須田町にあった。松平忠優（ただます）の老中就任に伴い、江戸城西の丸御下の二重橋付近に移り、安政2年に老中罷免まで使用

した。その後は幕末まで浅草の瓦町。小三郎が江戸へ出た嘉永元年の頃は二重橋前で、長崎から帰った頃は瓦町が上屋敷だったと推測される。

●内田五観（宇宙堂）のマテマチカ塾

四谷三丁目の付近に忍原町という所があり、そこに内田弥太郎の塾があったことになっている。古地図では内田の表記は確認できない。近くに西応寺があり、内田弥太郎の墓はないが、寺の過去帳には記載されている。

●下曾根金三郎塾（下曾根信教（のぶあつ）屋敷）

屋敷は麻布台の霊友会裏手の路地にあった模様。江戸古地図には下曾根金三郎の表示があり、場所は確認できた。下曾根の稽古場は赤羽橋付近で、小三郎はそこへ通っていたと推測される。

●英国総領事館

現在の横浜開港資料館と傍の神奈川県庁が英国総領事館であったようだ。小三郎が通ったのは、アプリンの私邸であったといわれている。

(4) 科学技術の歴史と日本の役割 丸山瑛一さん

(以下は当日説明のパワーポイント資料より文面コピー)

●理化学研究所は今年、創立100年を迎える。

第1部 理化学研究所を創った人々

●高峰讓吉（1854-1922）

父は加賀藩の御典医、母は高岡の造り酒屋の娘。

適塾・大阪医学校を経て工部大学校応用化学科を主席卒業。

越中国高岡（現富山県高岡市）に生まれる。

英国グラスゴー大学へ留学後、農商務省に入省。

1884年米国ニューオーリンズの万国工業博覧会に派遣され、そこで出会ったキャロライン・ヒッチと婚約。

帰国後1886年専売特許局長代理となり、局長高橋是清のもとで特許制度の整備に尽力。

高峰と特許制度の関係

欧米視察中の専売特許局長高橋是清の代理を務め特許制度の整備を行う。

アメリカで出願した「高峰式元麴改良法」は効果が大であったのでアメリカ酒造会社に注目されて研究所を作るが、ウィスキー醸造業者の反感を買い放火事件を起こされ断念。

消化薬「タカジアスターゼ」を開発、米国と日本でベストセラーとなる。

●渋沢栄一(1840-1931)

高峰と渋沢の遭遇と人造肥料会社の設立。

1886年高峰は神戸灘の酒屋で実業家渋澤栄一と偶然出会い、リン鉱石を用いた人造肥料の話をする。

これに興味を引かれた渋澤と益田孝の協力を得て東京深川に東京人造肥料会社を設立する。

理研設立の提言

1913年、渋澤栄一の呼びかけで、築地精養軒で有力経営者層を相手に「国民化学研究所」構想を発表。

これがきっかけになり、1917年理化学研究所が設立される。創立委員長は渋澤栄一（後に副総裁）。

●大河内正敏

理研第3代所長大河内正敏は数多くのベンチャー企業を設立し「理研中興の祖」と呼ばれる。

大河内の発想には高峰譲吉の影響が数多く見られる。

高峰の特許実用化をまねた「理研ビタミン」、「理研酒新進」、アルミニウム工業をまねた「理研マグネシウム」などである。

とりわけ「理研ビタミン」は理研の赤字体質を解消した画期的な製品であった。

第2部 日本の科学技術

科学技術の歴史

●歴史的にみると科学技術は列強の領土拡大のための武器と侵略に使われてきた。

フェニキア人と地中海植民地

アレキサンダー大王の東方遠征

フン族の侵入

ゲルマン民族の大移動

イスラム教国の拡大

チンギスハンと蒙古帝国

十字軍

大航海時代

●大航海時代と西欧各国の世界侵略

キリスト教の布教を大義名分にして、科学技術を手段に、アフリカ・アジア・中南米を侵略して巨大植民地群を築いた。

ポルトガル

スペイン

オランダ

イギリス

フランス
ロシア
ドイツ
アメリカ

●第二次世界大戦を契機として植民地各国の独立が始まる。

●白人至上主義との日本の戦い

日露戦争

大東亜戦争（太平洋戦争）

繊維摩擦

自動車摩擦

エレクトロニクス

半導体摩擦

ノーベル賞受賞者数

●国別ノーベル賞受賞者数（自然科学三賞（物理学賞、化学賞、医学・生理学賞））
1901年～2016年まで日本人は22人で、米国（250人）、英国（82人）、ドイツ（69人）、フランス（32人）に次いで、日本（22人）は第5位。
ところが、2001年以降の受賞者数で見ると、米国（59人）に次いで日本（12人）は第2位。

●「日本語の科学が世界を変える」 松尾義之

ジャーナリストの松尾義之氏が展開した所説

西欧発の自然科学はデカルト主義に基づき真と偽を明晰に区別する。

日本人はイエス・ノーをはっきり言わないことが欠点とされてきた。

しかし本当の真理は真と偽の中間に存在する。

●中間的もしくは非対称的な分野で日本の科学業績は上げられた。

●世界大学ランキング（2016－2017）で東大（34位）、京大（37位）
でかなり低い

●これからの日本の課題

- ・15世紀以来の白人至上主義の形成と科学技術の役割を概観してきた。
ノーベル賞受賞者数でも欧米に並ぶことができた我が国の課題は大学のランクを高めることである。
- ・江戸時代の日本教育は寺子屋、塾、藩校の普及で世界最高レベルの識字率を達成し、優れた人材を輩出していた。
- ・戦後教育を根底から見直し、21世紀の全人教育を創り出すことが求められている

● 中間的もしくは非対称的な日本の科学業績

湯川秀樹	中間子論
木村資生	分子進化の中立説
南部陽一郎	素粒子の自発対称性の破れ
今西錦司	棲み分け論
堀越弘毅	アルカリ環境の微生物
蔡安邦	準結晶
野依良治	キラル化合物の不斉合成
小林誠	物質と反物質の不整合
益川敏秀	物質と反物質の不整合

● (その他)

特許の有効期限が出願後 20 年と短い (著作権は死後 50 年まで有効) これを改善すべき。例えば、製品開発後 20 年とするなど。

赤松小三郎研究会 事務局

小山平六 (62 期)